

【研究課題名】

電子欠損型感応性 π 電子系の構築と機能

【各研究項目の連携状況】

領域内の他の研究グループとの連携状況（予定を含む）について、①簡略化した共同研究内容②連携研究代表者姓（研究項目班）③共著論文の有無（件数）を研究内容毎に記載

- ① ホウ素化合物の新たな光反応と機構解明
- ② 吉澤一成（A04）、池田浩（A02）
- ③ 無（準備中）

- ① ディスコチック液晶の合成と電荷輸送特性
- ① 近赤外励起赤色発光材料の開発
- ② 鎌田賢司（A01）
- ③ 無（準備中）

【原著論文】

1. K. Asai, *A. Fukazawa, *S. Yamaguchi, “A Near Infrared Dye that Undergoes Multiple Interconversions via Acid-Base Equilibria and Reversible Redox Processes,” *Angew. Chem. Int. Ed.*, in press (2017).
2. V. M. Hertz, N. Ando, M. Hirai, M. Bolte, H.-W. Lerner, *S. Yamaguchi, *M. Wagner, “Steric Shielding vs Structural Constraint in a Boron-Containing Polycyclic Aromatic Hydrocarbon,” *Organometallics*, ASAP (2017).
3. K. Asai, *A. Fukazawa, *S. Yamaguchi, “Stable Red-Emissive Cationic Dithienotropylium Dyes,” *Chem. Eur. J.*, **22**, 17571-17575 (2016).
4. K. Matsuo, S. Saito, *S. Yamaguchi, “A Soluble Dynamic Complex Strategy for the Solution-Processed Fabrication of Organic Thin-Film Transistors of a Boron-Containing Polycyclic Aromatic Hydrocarbon,” *Angew. Chem. Int. Ed.*, **55**, 11984-11988 (2016).

【受賞について】

（研究代表者・分担者の受賞）

平成28年4月：山口茂弘、長瀬研究振興賞

（研究協力者（＝学生、研究員など）の受賞）

2017年3月 研究協力者 戸田雄佑（修士課程2年）、日本化学会東海支部長賞

2016年6月 研究協力者 大島寛也（博士課程3年）、2016 Reaxys PhD PRIZE ファイナリスト

2016年4月 研究協力者 浅井健吾(博士課程3年) 日本化学会第95春季年会学生講演賞

【アウトリーチの実施状況】

山口茂弘、「光る分子が拓く未来」、半田高校SSH講演会、2017年2月4日

山口茂弘, 「分子の光で拓く未来」, 名古屋大学ITbM Lecture 高校生向け講演会, 2016年11月12日

山口茂弘, 「光る分子が拓く未来」, 国際有機化学財団特別セミナー, 大分高校生講演会, 2016年10月8日

山口茂弘, 「分子の光で拓く未来」, 名古屋大学ITbM Lecture 高校生向け講演会, 2016年6月11日

山口茂弘, 「分子の光で拓く未来」, 第26回名古屋大学理学懇話会, 2016年6月4日, 名古屋大学

山口茂弘, 「分子づくりはロマンだ」, 桑名高校講演会, 2016年5月6日